

ふるさと 資料紹介

= ④6 =



祐泉寺

史料と地名からみた 地区の歴史①

現在、日常生活で使っている地名は、その土地の特色や歴史的背景などをもとに生まれています。最近の住居表示により新しくつけられた地名もあります。古いものは古

代までそのルーツをたどることが出来ます。

今月からこのコーナーでは、各地区の歴史を、地名と史料から探ってみたいと思います。

太田(一)

鎌倉時代のはじめ、太田の名は「蜂屋太田」、または「蜂屋庄内太田郷」という名称で史料に表われてきます。

建長五年(一一五三)、近衛家文書に、「蜂屋太田郷資平卿」と記されており、近衛家(京都の摂関家の一つ)の

荘園であつたことが分かります。

十六世紀、太田町の北部にある加茂神社の所領は、大仙寺(八百津町)の管理のもとにありました。その目録には、「とごめ木」「若宮後」など、

今に伝わる地名も見つけられます。

大仙寺では、「太田郷祐川庵」(現在の祐泉寺)を現地の管理者にしています。

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/☎08551)まで情報をお寄せください。